

## 報告事項

### 【学会活動報告】

#### 1. 2011 年 11 月～2012 年 10 月での主な活動（会長 菊池武尅）

- ・研究大会・研究セミナーの開催：  
第 33 回研究大会（大会実行委員長 本間啓二、2011 年 11 月 12 日（土）・13（日）、日本体育大学世田谷キャンパス）  
第 30 回研究セミナー（実行委員長 白木みどり、2012 年 6 月 16 日（土）、上越教育大学）
- ・学会誌、ニューズレターの発行：  
『キャリア教育研究』第 30 巻第 2 号（2012 年 3 月 31 日発行） 第 31 巻第 1 号（同 9 月 30 日発行）。  
ニューズレター第 70 号（2012 年 3 月 31 日）、第 71 号（同 5 月 10 日）、第 72 号（同 9 月 30 日）
- ・学会 HP サーバー移行  
2012 年 4 月 1 日より、国際文献印刷社の管理するサーバーに学会 HP を移行
- ・会員名簿  
2012 年度版会員名簿を 2012 年 6 月に発行

#### 2. 会員の状況（事務局長 中村修）

2011 年度の定期総会（2011 年 11 月 12 日）より 2012 年度第 1 回理事会（2012 年 9 月 29 日）までに 120 名の新会員が承認され入会した。退会者は 75 名、1 団体、物故者 2 名である（入退会とも資料 1 参照）。これより 9 月 29 日時点で 1005 名（一般会員 908 名、一般(学生)会員 97 名）、名誉会長 1 名、名誉会員 5 名、賛助会員 7 団体となった。

\*総会成立要件については、2012 年度第 1 回理事会（2012 年 9 月 29 日）において承認を受けた一般会員数 1005 名を適用する。

#### 3. 会議の開催等（事務局長 中村修）

- ・会議の開催  
2011 年度第 1 回常任理事会 2011 年 12 月 23 日（金）早稲田大学  
2011 年度第 4 回理事会 2012 年 4 月 28 日（土）早稲田大学  
2012 年度第 1 回常任理事会 2012 年 6 月 30 日（土）早稲田大学  
2012 年度第 1 回理事会 2012 年 9 月 29 日（土）東京八重洲ホール
- ・会議等への参加（役員・委員の出張）  
日本心理学諸学会連合 理事会：2012 年 6 月 17 日（日）（会長）  
日本進路指導協会：2011 年 12 月 6 日（火）、2012 年 3 月 27 日（火）、6 月 19 日（火）、7 月 26 日（木）、9 月 25 日（火）（すべて会長）  
スクールカウンセリング推進協議会：2011 年 11 月 8 日（火）、2012 年 2 月 28 日（火）（すべて会長）
- ・共催・後援など  
[後援名義使用承諾]  
東京都専修学校各種学校協会第 18 回専門学校教育研究会（2012 年 3 月 12 日開催）  
九州大学人間環境学研究院 高等教育国際セミナー（2012 年 3 月 17 日開催）  
日本教育カウンセリング学会第 10 回記念研究発表大会（2012 年 8 月 18 日～19 日開催）  
日本産業カウンセリング学会第 17 回大会（2012 年 11 月 2 日～4 日開催）  
バーチャル・カンパニートレードフェア 2012  
（NPO アントレプレナーシップ開発センター 2012 年 11 月 24 日開催）

## 【委員会報告】

### 1. 学会誌編集委員会報告（委員長 川崎友嗣）

#### <学会誌発行・編集状況>

##### （1）学会誌の発行

『キャリア教育研究』第30巻第2号の発行（2012年3月31日付）

『キャリア教育研究』第31巻第1号の発行（2012年9月30日付）

##### （2）論文の投稿・審査状況

- ・2011年1月1日～12月31日 受稿論文数 13編  
（内訳は、原著論文11編、実践研究論文1編、資料論文1編）
- ・2012年1月1日～9月30日 受稿論文数 12編  
（内訳は、原著論文3編、ケース研究論文1編、実践研究論文5編、資料論文1編、SR1編）
- ・2011年9月30日時点での論文審査状況
  - 採択済み 1編
  - 査読・審査中 3編
  - 投稿者修正中 7編

#### <査読システムの変更>

##### （1）執筆規定の改正（平成24年4月28日）

###### 【改正前】

6. 原稿は4部を提出すること。なお図表を含めたすべての原稿をPDFファイルで提出できる場合は、印刷した原稿1部とファイルを収めた記録媒体を提出することができる。掲載が決定した後は、電子ファイル(テキストファイルなど)の提出が求められる。掲載が決定した後は、電子ファイル(テキストファイルなど)の提出が求められる。(以下、略)

###### 【改正後】

6. 原稿は2部を提出すること。なお図表を含めたすべての原稿をPDFファイルで提出できる場合は、印刷した原稿1部とファイルを収めた記録媒体を提出することができる。掲載が決定した後は、電子ファイル(テキストファイルなど)の提出が求められる。掲載が決定した後は、電子ファイル(テキストファイルなど)の提出が求められる。(以下、略)

##### （2）投稿前チェックリストの導入（平成24年6月30日）

「論文投稿に際しての学会誌編集委員会からのお願い」に対応したチェックリストを導入した。

※このチェックリストは、学会ホームページ（トップページ → 編集／執筆 規定 → 論文投稿に際しての学会誌編集委員会からのお願い）からダウンロードすることができます。今後、論文を投稿される際は、必ずこのチェックリストを用いて確認作業を行い、その結果を印刷して原稿に同封していただくようお願いいたします。

(3) チェックリストの導入にともなう関連規定等の改正 (平成 24 年 6 月 30 日)

① 執筆規定の改正

【改正後】 ※下線部を挿入。

1. 研究論文は横書きとし、本文・図・表・注・引用文献を含め、本規定 2 に示すページ数を上限とする。ただし、編集委員会が必要と認めた場合はこの限りではない。なお本誌 1 ページは約 2,000 字 (22 字×48 行×2 段) であるが、論文 1 ページ目にはタイトル、著者名がはいるため、1,400 字程度 (22 字×34~38 行×2 段) となる。

② 「論文投稿に際しての学会誌編集委員会からのお願い」

1) 冒頭箇所

【改正後】 ※下線部を挿入。

『キャリア教育研究』に論文を投稿いただく際、留意いただきたい点を以下に列挙しましたので、事前の確認をお願いいたします。「論文投稿前チェックリスト」を用いて確認を行い、投稿論文と一緒にご提出ください。不備のある場合は、査読前に修正をお願いしています。なお、最新の規定については、学会誌最新刊の表紙裏および裏表紙裏をご覧ください。

2) 学校名等の実名の記載 (II-4)

【改正後】 ※下線部を挿入。

歴史的な研究や先行研究としての紹介、その他さまざまな事情がある場合は別として、論文中に学校名等を記載する場合 (たとえば実践研究における実践校名など) はイニシャル表記にしてください。ただし、イニシャル表記を用いても、明らかに固有名詞が判明すると考えられる場合は、便宜的にアルファベット記号を用いてください (たとえばA県B市のC大学など)。また、著者が実名を挙げることが不可欠であるという場合には、実名を記載した本原稿とともに、追加書類として、実名掲載が必要な理由書および査読用に実名部分をイニシャル表記にした査読用原稿をご提出ください。審査は査読用原稿に基づいて行い、掲載決定後、本原稿と差し替えるという手続きをとります。

また理由書には、実名掲載によって問題が生じた場合、学会もしくは編集委員会はその責任をとることができませんので、著者においてそれにあたる旨も記載してください。

## 2. 研究推進委員会 (委員長 三村隆男)

### 【報告事項】

日本進路指導学会から日本キャリア教育学会に名称を変更して 5 年目の 2010 年に研究推進委員会では学会員対象のアンケートを実施しました。目的は、名称変更後の学会員の意識と今後の研究の在り方を考察するためです。結果は、キャリア教育研究第 30 巻第 2 号に掲載されています。アンケート結果を基にさらに学会の今後の研究・実践の方向性について検討するため、学会第 33 回研究大会でシンポジウム「名称変更後の学会の研究・実践の在り方」を開催したところ、キャリア教育研究における理論と実践の融合が話題に挙がりました。そこで、研究推進委員会では、実践者の学会誌『キャリア教育研究』への投稿を促進することを目的とした以下の 2 回の研修会を企画しました。

#### (1) 第 1 回研修会

2012 年 9 月 9 日 (日) 午後 2 時～4 時 30 分、早稲田大学にて「学会誌に投稿するには～実践と理論の融合の視点で～」をテーマに実施した。講師に、山田智之先生 (町田市立町田第一中学校)、大池公紀先生 (都立田柄高等学校) 及び浦上昌則先生 (南山大学) を招き、コーディネーターを吉本圭一先生 (九

州大学) にお願ひし、参加 54 名にて成功裏に終了した。次の (2) 第 2 回研修会の布石となった。

## (2) 第 2 回研修会

日本キャリア教育学会第 34 回研究大会 (滋賀大学) 10 月 28 日 (日) 15:15 ~ 17:15

研究推進委員会企画・学会誌編集委員会共同シンポジウム「キャリア教育に関する研究において実践と理論をつなぐー実践論文に求められるものは何か」

## 3. 情報委員会報告 (委員長 松井賢二)

1) JSSCE News Letter (第 70 号、第 71 号、第 72 号) 発行 (事務局と共同)

2) 2011 年度発行分のキャリア教育関連研究論文の紹介を学会誌『キャリア教育研究』に掲載

第 31 巻第 1 号 (2012 年 9 月発行)・・・2011 年度発行分の研究論文

・紹介した学会 (掲載順) :

①日本教育心理学会 ②日本学生相談学会 ③日本行動計量学会 ④日本産業カウンセリング学会

⑤日本キャリアデザイン学会 ⑥日本労務学会 ⑦産業・組織心理学会 ⑧日本産業科学学会

⑨人材育成学会 ⑩組織学会 ⑪日本教育社会学会

(注) 今回紹介できなかつた学会については、次号に掲載予定。

3) 情報委員会の開催

2012 年 4 月 28 日 : 委員会活動方針の検討、キャリア教育関連の紹介記事の執筆分担、等

## 4. キャリア・カウンセラー資格認定委員会報告 (委員長 伊藤彰茂)

### 【報告事項】

1. キャリア・カウンセラー養成研修講座に関する事項

(1) 2012 年度第 1 回キャリア・カウンセラー養成研修講座

開催日時 : 2012 年 6 月 16 日(土) 9:00~12:10

会場 : 上越教育大学 (第 30 回研究セミナー会場)

講師 : a 分野 稲垣応顕先生 (上越教育大学大学院 准教授)

「キャリア・カウンセリングにおける知と心

ー自己形成と関係性形成能力に着目してー」

c 分野 中島 満先生 (石川県進路指導研究協議会 顧問)

「米国テキサス州のキャリア教育の目標と

ヒューストン日本語補習校生徒の現地校でのキャリア学習の実態及び若干の考察」

受講者数 : 17 名 (事前申込 : 15 名、欠席 : 0 名、当日申込 : 2 名)

(2) 2012 年度第 2 回キャリア・カウンセラー養成研修講座

開催日時 : 2012 年 10 月 27 日(土) 9:00~12:10

会場 : 滋賀大学 大津キャンパス (第 34 回研究大会 会場)

講師 : a 分野 安達智子先生 (大阪教育大学 准教授)

「社会的認知理論からみるキャリア選択と支援」

b 分野 米田 薫先生 (大阪青山大学 教授)

「キャリア・カウンセリングの理論と方法

～解決試行アプローチと構成的グループエンカウンターを活用して～」

2. キャリア・カウンセラー養成研修基礎講座及びキャリア・カウンセラー研修アドバンス講座に関する事項

(1) 2012 年度キャリア・カウンセラー養成研修基礎講座

開催日 : 2012 年 9 月 8 日(土)、9 日(日)

会場 : 愛知県産業労働センター[ウイंकあいち] (愛知県名古屋市内)

講座内容 : a、b、c 分野開講

a 分野 川崎友嗣先生 (関西大学)

「キャリア教育の理解」「キャリアの理論とその適用」

b 分野 三川俊樹先生 (追手門学院大学)

「キャリア支援におけるキャリア・カウンセリングの重要性」「キャリア支援に必要なコミュニケーションスキル」「キャリア支援に必要なカウンセリング・スキル」

c 分野 伊藤彰茂先生 (愛知みずほ大学)

「産業社会形成の歴史的経緯」「日本企業における外的キャリア形成」「労働とコスト」「事例研究」

修了試験 (筆記試験)

受講者数: 20 名 (内訳: 申込者 21 名、欠席者 1 名)

修了試験合格者数: 15 名 (修了試験受験者数: 20 名)

(2) 2012 年度キャリア・カウンセラー研修アドバンス講座

開講内容: 「キャリア教育プログラムの開発と運営」「キャリア教育とキャリア形成支援に関するコーディネーション、コンサルテーション」「キャリア・カウンセリングの実践と応用」

開催日、会場共に上記 2. (1) と同様

受講者数: 9 名 (内訳: 申込者 9 名、欠席者 0 名)

### 3. 「キャリア教育 (キャリア形成支援を含む) の実践力アップセミナー～理論と実践の融合を目指す～」

に関する事項

開催日 : 2012 年 2 月 24 日(金)、25 日(金)

会 場 : 愛知県産業労働センター[ウインクあいち] (愛知県名古屋市内)

講 師 : 三川俊樹先生、川崎友嗣先生、伊藤彰茂先生

受講者数: 36 名 (内訳: 申込者 37 名、欠席者 1 名)

### 4. ガイダンスカウンセラー資格申請について

スクールカウンセリング推進協議会認定ガイダンスカウンセラー資格の申請に関して、本学会認定キャリア・カウンセラー資格認定者 (但し、他機関等からの申請を済ませている資格取得者は除く) を対象に申請案内を送付した。

本学会は、スクールカウンセラー推進協議会に「ガイダンスカウンセラー」の創設検討段階から参加している。しかし、資格申請に関しては、各参画団体が付与している資格の要件が異なることから、本学会においては独自の資料の添付を申請者に義務付けることとした。したがって、①「ガイダンスカウンセラー」申請書類、②「ガイダンスカウンセラー資格申請 (日本キャリア教育学会 資格認定委員会審査書類)」の 2 つの書類の提出を申請必要条件とした。

ガイダンスカウンセラーの資格審査を希望する場合、現在のところ審査料を収め、規定に係る実践内容に関する申請書類および証明資料を提出することで申請が可能となる。

なお、現在「ガイダンスカウンセラー」資格取得は、提出される申請書類を審査することで資格認定を可否するという経過措置期間中である。

### 5. キャリア・カウンセラー資格取得・更新ならびに返還状況

理事会等における報告日	新規	更新	返還
2012 年 4 月 28 日(土) (2011 年度第 4 回理事会)	12	7	2
2012 年 9 月 29 日(土) (2012 年度第 1 回理事会)	3	3	5
2012 年 10 月 27 日(土) (2012 年度第 2 回理事会)	9 (※審査中)	0	0

学会認定キャリア・カウンセラー資格取得者数 147 名 (2012 年 10 月 1 日現在)

#### 【審議事項】

#### 1. 2013 年度事業計画 (案) ※一部 2012 年度を含む

(1) キャリア・カウンセラー養成研修講座の開催

① 1 回目: 第 31 回研究セミナー開催時

② 2 回目: 第 35 回研究大会開催時

(2) 第 5 回キャリア・カウンセラー養成研修基礎講座の開催 (2012 年度事業)

開催場所: 東放学園音響専門学校 (東京都渋谷区本町 4-20-7)

開催日：2013 年 2 月 16 日(土)、17 日(日)開催予定

(3) 第 6 回キャリア・カウンセラー養成研修基礎講座の開催

開催場所：大阪市内

開催日：2013 年 9 月土曜・日曜 を予定

(4) 第 7 回キャリア・カウンセラー養成研修基礎講座の開催

開催場所：名古屋市内

開催日：2014 年 2 月土曜・日曜 を予定

2. キャリア・カウンセラー研修アドバンス講座の開講に関して

キャリア・カウンセラー研修アドバンス講座の開講は、隔年開講とする。したがって、時期の開講予定は 2014 年夏季を予定している。

## 5. 倫理委員会報告 (委員長 本間啓二)

倫理綱領の見直しを行い、理事会の承認を得て 2012 年 4 月 28 日付で改訂を行った。改訂された内容については、HP、ニューズレターにて会員への周知を行った。

日本キャリア教育学会 倫理綱領

前 文

日本キャリア教育学会会員は、すべての人の基本的人権と尊厳に対して適切な敬意を払い、これを侵さず、人間の自由と幸福の追求の営みを尊重し、キャリア教育に関する研究および実践活動に携わる。そのため、常に専門家としての自覚をもち、自らの行為に対する責任を負う義務をもつように努める。研究・実践活動の協力者となる者に対しては、個人のプライバシー、秘密の保持、自己決定および自律性という個人の権利を尊重し、健全なキャリア発達、および主体的なキャリア選択を損なわぬよう配慮する。このため学会会員は個人の権利や社会規範を侵すことのないよう努力し、個人に心理的苦痛や身体的危害を加える可能性をもつ行動に参加したり、それを認めてはならない。

上記の精神に基づき、以下の条項を定める。

(責任)

第 1 条 会員は、自らの専門的業務が及ぼす結果に責任をもたなければならない。

(権利と福祉の尊重)

第 2 条 会員は、研究および実践の協力者、さらに共同で活動する同僚、学生その他の関係者の権利を侵害しないように最大限の努力を払わなければならない。

(2) 会員は、研究及び実践の協力者・関係者の所属する集団の規範や習慣・文化・価値観も尊重しなければならない。

(3) 会員は、研究及び実践の協力者・関係者の幸福や福祉を軽視してはならない。

(説明と同意)

第 3 条 会員は、研究や実践の実施に際して、その目的および具体的内容について協力者・関係者に説明し、文書または口頭で同意を求めなければならない。学校、職場、家庭、各種施設などにおいて研究や実践を行う場合には、当該現場の責任者の許可を得なければならない。また、関係者全員の同意を得るように努めなければならない。

(2) 研究や実践を実施する都合によって内容に関する事前の情報開示に制限を加える必要がある場合には、それが個人になんらかの負の影響を与えないことを確認した後、実施後に速やかに事情を説明し、了解を求めなければならない。

(3) 研究や実践の協力者が、自らの意志で参加を拒否、途中で中断あるいは放棄できることを事前に説明しなければならない。ただしこの手続きは、協力者の発達水準や学校等の協力機関の実情に相応した形で伝えられる配慮をしなければならない。

(研究・実践の実施)

第 4 条 会員は、研究または実践に際して、協力者又は関係者の心身に不必要な、あるいは最少限以上の負担を掛け、又は 苦痛若しくは不利益をもたらすことを行ってはならない。

(2) 研究や実践に際しては、それまでに蓄積されている成果を網羅的に参照し、その研究や実践の必要性を明確にしておかなければならない。

(3) 研究や実践における目的と方法は科学的・学術的な観点から見て妥当なものでなければならない。また、その研究には科学的・学術的に有意義な知見が得られる具体的可能性がなければならない。

(4) 研究や実践の進行中にその活動が協力者の心身を脅かしていることに気付いた際には、その実施を直ちにとりやめ、事態の改善を図る処理を実行しなければならない。

(査定の実施)

第5条 会員は、協力者の人権に留意し、査定を強制し、若しくはその技法をみだりに使用し、又はその査定結果が誤用され、若しくは悪用されないように、配慮を怠ってはならない。

(2) 会員は、市販されている査定用紙や器具、説明書等の利用に際し、違法な複写や模造をしてはならない。

(3) 会員は、査定技法の開発、出版又は利用に際し、その用具や説明書等をみだりに頒布することを慎まなければならない。

(秘密保持)

第6条 会員は、研究や実践の活動によって得られた情報については厳重に管理し、実施時に同意を得た本来の目的以外に使用してはならず、また同意を得た情報以外を利用してはならない。

(2) 会員は、研究結果や実践の成果の公表に際して特定個人の資料を用いる場合には、協力者の秘密を保護する責任をもたなくてはならない。会員をやめた後も、同様とする。

(3) 研究終了後は、個人情報情報を廃棄する。

(公開)

第7条 研究や実践の成果については、各種学会大会や研究会などでの発表、論文や著書の公刊などを通じて、できる限り社会還元するよう努力しなければならない。

(2) 研究結果や実践の成果を公開するに際しては、研究のもたらす社会的、人道的、政治的意義に十分配慮し、専門家としての責任を自覚して行わねばならない。

(3) 研究のために用いた質問紙、検査や資料等については出典を明記しなければならない。

(4) 共同研究においては、共同研究者の権利と責任に配慮しなければならない。

(5) 一般の人々に対して専門的意見を公開する場合には、公開者の権威又は公開内容について虚偽や誇張、歪曲がないようにし、公正を期さなければならない。また、公開した資料に重要な間違いを発見した場合には、資料の取り下げや訂正記事の発表などにより、間違いを修正しなければならない。

(6) 既に発表した資料や論文を再度公開する場合には、その旨を明記しなければならない。既発表のデータに新たな分析を行った結果を公開する場合も同じである。

(研鑽の義務)

第8条 会員は、本倫理綱領を十分理解し、実行できるために研鑽する機会をもつよう努めなければならない。

(倫理の遵守)

第9条 会員は、この倫理綱領を十分に理解し、これに違反することがないように常に注意しなければならない。

附 則

この倫理綱領は、平成 19 年 10 月 28 日から 1 年間は周知期間とし、平成 20 年 10 月 28 日から施行する。

平成 24 年 4 月 28 日一部改訂

## 6. IAEVG 開催準備委員会 (委員長 三村隆男)

### 【報告事項】

#### (1) 第 1 回の準備委員会

2012年6月10日(日)早稲田大学で開催し、委員会構成、今後の活動計画を協議しました。

#### (2) IAEVG 国際大会 (マンハイム) 理事会でのプレゼンテーション

2012年10月3日(水)に開催された IAEVG 国際大会 (マンハイム) 理事会にて準備委員長がプレゼンテーションを行い、正式に 2015 年の日本大会が決定された。現段階の決定事項は以下である。

- ①開催日時は 2015 年 9 月 18 日（金）～21 日（月）まで（なお、18 日（金）夕方はウェルカムドリンクなど）。
  - ②会場はつくばの国際会議場（成田エクスプレスつくば駅歩 10 分）
- (3) 第 2 回の準備委員会  
2012 年 12 月 16 日（日）午前 10 時 15 分～、早稲田大学で開催予定。

## 【研究大会・研究セミナー報告】

### 1. 第 33 回研究大会報告（大会実行委員長 本間啓二）

2011 年 11 月 12 日（土）・13 日（日）の 2 日間にわたり、日本体育大学において「キャリア教育の課題と今後の展望」をテーマに開催された。報告の詳細は、学会誌『キャリア教育研究』第 30 巻第 2 号に掲載した。

### 2. 30 回研究セミナー報告（セミナー実行委員長 白木みどり）

2012 年 6 月 16 日、上越教育大学にて「キャリア教育、その理論と実践の融合 ―学校教育と社会形成を考える」をテーマに研究セミナーを開催した。報告の詳細は、学会誌『キャリア教育研究』第 31 巻第 1 号に掲載した。

## 【地区部会活動】

### 1. 北海道・東北地区部会活動

2012 年 3 月 会員の動向・活動意向調査

2012 年 10 月 6 日（土）

総会および 2012 年第 1 回研究会（福島市 ユニックスビル 8 F）

「震災復興の中の人材育成『学生教育とキャリア教育』」

会津大学短期大学部 教授 平澤賢一

参加 19 人（会員 8 名 非会員 11 名）

代表：五十嵐敦（福島大学総合教育研究センター）

### 2. 関東地区部会活動

2011 年度 活動報告

#### 1. 2011 年 5 月 21 日（土）日本体育大学 第 1 回研修会・総会 参加者 72 名

発表 「発達障害の可能性のある若年者に対する就労支援～一般の窓口における支援の現状と課題～」

大泉多美子（山形大学大学院地域教育文化研究科臨床心理学専攻）

講演 「キャリア・コンサルティングのこれまでと今後の課題」

木村 周（東京成徳大学院心理学研究科客員教授）

#### 2. 2011 年 6 月 19 日（日）第 29 回研究セミナー 早稲田大学 参加者 183 名

全体テーマ 「キャリア教育は社会の要請に込えているか」

テーマ設定主旨 キャリア教育が登場して 12 年が経過する中、「社会の要請に込える」視点で今一度キャリア教育の意義及び今後の在り方について検討する。

シンポジスト 厚生労働省 職業安定局就労支援室長

伊藤正史



株式会社 JTB 法人東京取締役マーケティング部長	大塚雅樹
株式会社 資生堂人事部人材開発室長	深澤品久
全国中学校進路指導研究会会長・荒川区立諏訪台中学校長	清水隆彦
東京都高等学校進路指導協議会事務局長・東京都立足立高等学校教諭	浦部ひとみ
埼玉学園大学経営学部教授	磯山 優
株式会社 インテリジェンス就職支援部エグゼクティブ・マネージャー	柳沢恵美子

3. 2011 年 7 月 23 日 (土) 日本体育大学にて第 2 回研修会 参加者 37 名  
発表 「高校の教科教育におけるキャリア教育」牛木寿美 (川崎市教育委員会総合教育センター)  
発表 「大学におけるキャリアサポート実習の実践事例」山田弘美 (日本体育大学非常勤講師)

4. 2011 年 10 月 8 日 (土) 第 3 回研修会 (早稲田大学) 参加者 53 名  
講師 橋本光生 (NPO 学生キャリア支援ネットワーク)  
小境幸子 (埼玉県立岩槻商業高校)  
高橋浩 (明治大学就職キャリア支援部)

5. 2011 年 12 月 10 日 (土) 第 4 回研修会 (早稲田大学) 参加者 49 名  
講師 海藤美鈴 (東京都小学校キャリア教育研究会事務局長、江東区立毛利小学校副校長)  
清水隆彦 (全国中学校進路指導連絡協議会会長、荒川区立諏訪台中学校長)  
浦部ひとみ (東京都高等学校進路指導協議会事務局長、東京都立足立高等学校主幹教諭)

代表 本間啓二 (日本体育大学体育学部)

副代表 三村隆男 (早稲田大学大学院) 木村周 (東京成徳大学院心理学研究科客員教授)

### 3. 中部地区部会活動

- 講演 (2010 年度総会時)  
日 時: 2011 年 5 月 8 日 (日)  
場 所: 椋山女学園大学看護学部棟 104 教室  
参加者: 40 名 (会員 27 名、非会員 13 名)  
講 演: 「今後の学校におけるキャリア教育の在り方について  
-中教審答申 (平成 23 年 1 月答申) を踏まえて-」  
講師 文部科学省 国立教育政策研究所生徒指導研究センター  
総括研究官 藤田晃之氏
- 第 1 回研究会  
日 時: 2011 年 8 月 21 日 (日)  
場 所: 南山大学名古屋キャンパス D 棟 4 階 D43 教室  
参加者: 21 名 (会員 16 名、非会員 5 名)  
テーマ: 「学生 (中・高・大学生) のキャリア発達について考える  
-学校教育における教科の視点から-」  
話題提供者: 町田市立町田第一中学校教諭 山田智之氏
- 第 2 回研究会  
日 時: 2011 年 12 月 18 日 (日)  
場 所: 南山大学名古屋キャンパス D 棟 5 階 D51 教室  
参加者: 26 名 (会員 26 名、会員限定)

内 容：出席者全員によるワークショップ

代表：浦上昌則(南山大学)

副代表：坂柳恒夫(愛知教育大学) 伊藤由美子(愛知みずほ大学)

#### 4. 近畿・中国・四国地区部会活動

第 13 回研究大会を開催

日時：2012 年 7 月 8 日（日）13:00～17:00

場所：研究大会

・講演・実践報告：ノボテル甲子園 2 階 愛宕

・視察研修：キッザニア甲子園

参加者：会員 36 名、非会員 12 名、計 48 名

（視察研修：会員 32 名、非会員 10 名、計 42 名）

講演：

「子どもたちの生きる力を養う「キャリア教育」を目指して」

中村雄介氏（KCJ GROUP 株式会社 キッザニア甲子園）

実践報告：

「キッザニア甲子園での職業体験を核とした小学校でのキャリア教育の実践例」

信田和則氏（奈良市立登美ヶ丘小学校）

キッザニア甲子園の視察研修

キッザニア甲子園の施設内を視察しながら、実際の子どもの体験活動について学ぶ。

代表：伊藤博（大手前大学）

副代表：湯尾慎一（芦屋大学）・三保紀裕（島根大学）

#### 5. 九州・沖縄地区部会活動

①第 11 回研究大会

日時 2011 年 12 月 17 日（土）13:00～17:00（受付 12:30 開始）

場所 九州大学 文・教育・人間環境学府研究棟 2 階会議室

基調講演 「キャリア教育・職業教育の効果を巡って」

吉本 圭一（九州大学）

シンポジウム 「キャリア教育の実践と効果」

コーディネーター 植村 善太郎（福岡教育大学）

シンポジスト 長村 敦子（(株)ベネッセコーポレーション）

真鍋 和博（北九州市立大学）

宮原 清（福岡県立博多青松高等学校）

②日本インターンシップ学会九州支部、日本キャリア教育学会九州・沖縄地区部会合同研究会

テーマ 「インターンシップ、海外動向についての研究報告」

日時 2012 年 3 月 16 日（金）13:00～17:00（受付 13:00 開始）

場所 九州大学 西新プラザ（福岡市早良区西新 2-1 6-2 3）

プログラム：

13:40～

・発表 1. 『産学連携によるキャリア教育・専門教育推進政策』

名子 学 (文部科学省 高等教育局 専門教育課 企画係長)

- ・発表 2. 『京都産業大学における日本型コーオプ教育の展開』

中川 正明 (京都産業大学理事)

- ・発表 3. 『独・大学・専門大学・ベルーフスアカデミーにおける産学連携教育』

坂野 慎二 (玉川大学教授)

・ポスターセッション インターンシップや産学連携教育等に関する研究成果や実践事例発表  
15:30～

- ・発表 4. 『豪州における高等教育政策と産学連携教育』

杉本 和弘 (東北大学准教授)

- ・発表 5. 『英国における若者のエンプロイアビリティ政策』

沢田 隆 (札幌国際大学教授)

16:30～

- ・全体討議 進行 亀野 淳 (北海道大学准教授)

司会進行 真鍋 和博 (北九州市立大学教授)

代表 : 永田萬享 (福岡教育大学)

事務局長 : 吉本圭一 (九州大学)

## 2012 年度 学会表彰

### 1)学会賞

#### 学会賞選考委員会

委員長：三川俊樹（副会長）

委員：川崎友嗣（学会誌編集委員長） 三村隆男（研究推進委員長） 松井賢二（情報委員会委員長）

伊藤彰茂（キャリア・カウンセラー資格認定委員会委員長） 榎本和生（会長指名） 三宅章介（会長指名）

受賞者： 古市 裕一 氏

### 2)学会功労賞

## 審 議 事 項

### 1. 2011 年度決算報告および会計監査報告

(事務局長 中村修、 資格認定事務局長 伊藤彰茂、 監事 伊藤一雄、伊藤由美子)

### 2. 2012 年度上半期予算執行状況 (事務局長 中村修、資格認定事務局長 伊藤彰茂)

### 3. 学会会則等新設 (事務局長 中村修)

#### 1) IAEVG 開催準備基金の設立について

これまでの理事会において、IAEVG 国際学会日本大会を開催するにあたり、財政的基盤となる基金の設立が議論されてきた。その際には、「大会収支決算時の不足等に備えたストック分としての基金」が念頭に置かれていたが、開催準備委員会での検討を経て、「開催準備に関する委員会経費」の必要性が指摘された。この委員会が特別委員会であることを踏まえ、委員会経費を一般会計より独立させ、IAEVG 開催に関するすべての経費を一元的に把握・管理するため、基金設立のための規定案が作成され、2012 年度第 1 回理事会にて検討された。その後さらに表記の問題について委員会で検討し、以下のような規定案が作成された。

### 日本キャリア教育学会 IAEVG 国際大会開催準備基金に関する規定 (案)

- 第 1 条 この基金及びその果実を、2015 年に本学会が主催する IAEVG 国際大会の開催準備金とし、開催に至るまでの IAEVG 国際大会開催準備委員会(以下、準備委員会)の経費を支弁する。
- 第 2 条 この基金は、学会の一般会計及びキャリア・カウンセラー資格認定委員会会計からの供出金によって運営する。それぞれの供出金額は理事会の決定によって定められる。
- 第 3 条 基金の支出にあたっては、随時、準備委員会が予算案を策定し、理事会の承認を経て執行する。
- 第 4 条 IAEVG 国際大会終了時に行われる収支決算確定後に不足金が発生した場合、この基金から支弁して不足分を補うこととする。
- 第 5 条 IAEVG 国際大会終了時に行われる収支決算確定後の余剰金は学会の一般会計及びキャリア・カウンセラー資格認定委員会会計に返還されるものとする。
- 第 6 条 この基金の管理と運営は学会事務局が行う。
- 第 7 条 この規定の改正は、理事会の議を経て行うことができる。
- 第 8 条 この規定は、平成 24 年 10 月 27 日より施行する。

#### 4. 理事・監事選挙結果報告（選挙管理委員長 横山明子）

投票期間：2012 年 7 月 1 日～15 日

開票：2012 年 7 月 23 日 会場：東北福祉大学

##### (1)投票者数(地区別)

	北海道・東北	関東	中部	近畿	中・四国	九州	計
投票数	17	39	52	24	8	7	147
有権者数	85	347	206	174	59	76	947
投票率%	20.00	11.24	25.24	13.79	13.56	9.21	15.52

##### (1)-2役員別・地区別投票状況

###### ◆全国理事 3名連記

	北海道・東北	関東	中部	近畿	中・四国	九州	計
投票者数	17	39	52	24	8	7	147
投票総数	51	117	156	72	24	21	441
白票	3	10	12	2	0	1	28
無効票	4	3	10	7	2	6	32
有効投票数	44	104	134	63	22	14	381

###### ◆地区理事 関東、中部は2名連記、他地区は1名

	北海道・東北	関東	中部	近畿	中・四国	九州	計
投票者数	17	39	52	24	8	7	147
投票総数	17	78	104	24	8	7	238
白票	1	7	7	0	0	0	15
無効票	0	2	7	0	0	0	9
有効投票数	16	69	90	24	8	7	214

###### ◆監事 1名

	北海道・東北	関東	中部	近畿	中・四国	九州	計
投票者数	17	39	52	24	8	7	147
投票総数	17	39	52	24	8	7	147
白票	1	4	6	2	0	2	15
無効票	2	2	3	3	0	2	12
有効投票数	14	33	43	19	8	3	120

##### (2)役員別・地区別有効投票数

	北海道・東北	関東	中部	近畿	中・四国	九州	計
全国理事	44	104	134	63	22	14	381
地区理事	16	69	90	24	8	7	214
監事	14	33	43	19	8	3	120
計	74	206	267	106	38	24	715

(3)役員別得票者・得票数一覧 ※網かけは当選者 全員4年任期						
全国理事		地区理事				監事
		北海道・東北	関東	中部	近畿	
坂本 ひとみ(18票)	新井 肇(5票)	五十嵐 敦(9票)	下村 英雄(6票)	伊藤 正秀(17票)	若松 養亮(4票)	服部 文彦(18票)
高綱 睦美(18票)	榎本 和生(5票)	鈴木 敏明(1票)	榎本 和生(4票)	長坂 廣幸(15票)	河崎 智恵(4票)	高綱 睦美(7票)
中西 勲(18票)	小泉 令三(5票)	沼山 博(1票)	小杉 礼子(3票)	高綱 睦美(9票)	辻 彰彦(2票)	坂柳 恒夫(5票)
下村 英雄(18票)	古川 雅文(5票)	渡部 昌平(1票)	萬年山 啓(3票)	浦上 昌則(8票)	伊東 眞行(2票)	野淵 龍雄(4票)
玉田 和弘(15票)	児美川 孝一郎(5票)	軍司 悟(1票)	吉田 修(3票)	西條 秀俊(5票)	以下 12名(12票)	野々村 新(4票)
竹内 倫和(14票)	鈴木 敏明(5票)	青木 慎一郎(1票)	望月 由起(3票)	坂柳 恒夫(4票)	計 16名(24票)	若松 養亮(4票)
浦上 昌則(10票)	千葉 吉裕(5票)	内海 淳(1票)	青木 由美子(2票)	大野木 裕明(3票)		室山 晴美(3票)
竹内 登規夫(10票)	五十嵐 敦(4票)	竹本 由香里(1票)	岩崎 久美子(2票)	竹内 登規夫(3票)	中国・四国	吉田 修(3票)
小杉 礼子(9票)	西條 秀俊(4票)	計 8名(16票)	江川 裕子(2票)	杉本 英晴(2票)	長尾 博暢(2票)	植村 善太郎(2票)
若松 養亮(7票)	永作 稔(4票)		木村 周(2票)	深谷 潤一(2票)	中川 洋子(2票)	浦上 昌則(2票)
河崎 智恵(7票)	野淵 龍雄(4票)		小林 公生(2票)	以下 22名(22票)	以下 4名(4票)	木村 周(2票)
古市 裕一(6票)	宮崎 冴子(4票)		児美川 孝一郎(2票)	計 32名(90票)	計 6名(8票)	田澤 実(2票)
鹿嶋 研之助(6票)	山田 智之(4票)		笹 のぶえ(2票)			中村 修(2票)
木村 周(6票)	以下 112名(142票)		永作 稔(2票)		九州	古市 裕一(2票)
白井 利明(6票)	計 142名(381票)		宮崎 冴子(2票)		永田 萬享(4票)	山田 亮(2票)
佃 直毅(6票)			以下 29名(29票)		以下 3名(3票)	以下 58名(58票)
中村 修(6票)			計 44名(69票)		計 4名(7票)	計 73名(120票)

## 5. 新役員体制(案)

会長 三川 俊樹 (追手門学院大学)

副会長

常任理事

事務局長

理事・・・○印は新任(2016年まで任期)、印のない場合は継続(2014年まで任期)

[地区選出理事] 16名

北海道・東北地区 ○五十嵐敦 (福島大学)、國眼眞理子 (東北公益文科大学)

関東地区 ○下村英雄(労働政策研究・研修機構)、○萬年山啓(キャリア・コンサルティング協議会)、藤田晃之 (文部科学省初等中等教育局)、宮城まり子 (法政大学)

中部地区 ○伊藤正秀(浜松学院大学)、○長坂廣幸(NPO キャリアフォーラムプラザどっと愛)、白木みどり (上越教育大学)

近畿地区 ○若松養亮(滋賀大学)、三川俊樹 (追手門大学)、安達智子 (大阪教育大学)

中国・四国地区 ○長尾博暢(鳥取大学)、原口恭彦 (広島大学)

九州地区 ○永田萬享(福岡教育大学)、坂本昭 (福岡大学)

[全国理事] 6名

○坂本ひとみ (高知県立大学)、○高綱睦美 (愛知教育大学)、

○中西勲 (日本心理カウンセリング振興財団)、横山明子 (帝京大学)、耳塚寛明 (お茶の水女子大学)、寺田盛紀 (名古屋大学)

[会長指名理事]

監事 ○服部文彦 (愛知県立岡崎商業高等学校)、伊藤由美子 (愛知みずほ大学)

事務局 (株) 国際文献印刷社

6. 2013 年度予算(案) (事務局長 中村修、 資格認定事務局長 伊藤彰茂)

7. 第 31 回研究セミナー開催(案)

担当地区：九州沖縄地区部会

8. 第 35 回研究大会・定期総会開催(案)

9. その他



【資料 2】

日本キャリア教育学会役員名簿						2012年10月現在
役職	所属地区	氏名	所属	所属地区	氏名	所属
会長	北海道東北	菊池 武剋	東北大学名誉教授			
副会長	近畿	三川 俊樹	追手門大学			
常任理事	中部	伊藤 彰茂	愛知みずほ大学	中部	松井 賢二	新潟大学
	近畿	川崎 友嗣	関西大学	関東	三村 隆男	早稲田大学
	関東	本間 啓二	日本体育大学	関東	横山 明子	帝京大学
理事	北海道東北	國眼 眞理子	東北公益文科大学	中部	寺田 盛紀	名古屋大学
	北海道東北	鈴木 敏明 *	東北大学	中部	白木 みどり	上越教育大学
	関東	耳塚 寛明	お茶の水女子大学	中部	浦上 昌則 *	南山大学
	関東	藤田 晃之	国立教育政策研究所	近畿	清水 和秋	関西大学
	関東	宮城 まり子	法政大学	近畿	安達 智子	大阪教育大学
	関東	榎本 和生 *	多摩美術大学	中国四国	加澤 恒雄	東京聖栄大学
	関東	下村 英雄 *	労働政策研究・研修機構	中国四国	原口 恭彦	広島大学
	中部	後藤 宗理	椋山女学園大学	九州	吉本 圭一	九州大学
	中部	三宅 章介	東海学園大学	九州	坂本 昭	福岡大学
	監事	近畿	伊藤 一雄	関西福祉科学大学	中部	伊藤 由美子
事務局長	北海道東北	中村 修 *	東北福祉大学			
事務局(業務委託)	(株)国際文献印刷社					

\* 会長指名理事

学会誌編集委員会

委員長 川崎 友嗣 副委員長 横山 明子  
 常任編集委員 清水 和秋 後藤 宗理 古市 裕一 藤田 晃之 安達 智子  
 編集委員 五十嵐 敦 下村 英雄 藤岡 秀樹 寺田 盛紀 坂本 昭 加澤 恒雄 永田 萬享  
 浦上 昌則 河崎 智恵 小泉 令三 白井 利明 高綱 睦美 永作 稔 廣瀬 英子  
 小杉 礼子 室山 晴美 古川 雅文 望月 由起 若松 養亮

研究推進委員会

委員長 三村 隆男 副委員長 吉本 圭一  
 委員 耳塚 寛明 榎本 和生 下村 英雄 工藤 榮一

情報委員会

委員長 松井 賢二 副委員長 鈴木 敏明  
 委員 白木 みどり 三宅 章介 浦上 昌則 西條 秀俊

キャリア・カウンセラー資格認定委員会

委員長 伊藤 彰茂 副委員長 川崎 友嗣  
 委員 三川 俊樹 渡辺 芳生 吉倉 英基 長須 正明 中條 敦仁

倫理委員会

委員長 本間 啓二  
 委員 望月 由起 若松 養亮 寺田 盛紀 國眼 眞理子

選挙管理委員会

委員長 横山 明子  
 委員 鈴木 敏明 高綱 睦美 中村 修

IAEVG開催準備委員会

委員長 三村 隆男  
 委員 川崎 友嗣 下村 英雄 番田 清美 宮城 まり子 中村 修